



YONEYAMA

米山奨学生
関西学友会

KANSAI

**ROTARY 2660 YONEYAMA
ALUMNI KANSAI 2015-2016**

2015 年度米山総会及び新規奨学生歓迎会報告書



『実践躬行』

場所 :KKR ホテル大阪「銀河」

日付 : 2015 年 7 月 5 日 17:00 ~ 21:00 開催

◆ 2015 年度総会 ◆

今年度総会のテーマ : 「実践躬行」

2015-16 年度米山総会がネパール震災復興支援音楽祭を企画して、学友・奨学生がネパール民族衣装で開催されました。恒例の学友大集合・海外から韓国・台湾・中国（上海）・タイ学友会そして国内 2640 地区・2650 地区・東京学友など多くの応援参加、懇親会でネパールの民族音楽に合わせながら・学友・奨学生が一体となって、少しでもネパール学友に元気を付けられるようにに踊ります♪歌います♪♪~~~~

◇「実践躬行」◇海外から出席学友紹介

●韓国学友会 会長 : 全 炳台 (JEON BYONG TAE) 1979 年 ~ 1983 年受領、世話クラブ仙台北 R C
現在韓国建国大学に勤務 教授

●中国学友会 会長 : 劉 京榕 (リュウ ジンルン) 2001 年 ~ 2001 年受領、世話クラブ 八日市南 R C
現在 TESEC CHINA に勤務 總經理

●台湾米山学友会 理事 : 陳 怡潔 (チン イチェ) 1993 年 ~ 1995 年受領、世話クラブ埼玉川越 R C
関口大樹 (セキグチ ダイキ) 台湾米山学友会独自の奨学金制度により奨学生
現台湾国立師範大学就学中

●タイ学友会 幹事 : Wasin Techachainran (ワシン テイシャシャイニラン)
2011 年 ~ 2012 年受領世話クラブ東京清瀬口 R C
Mahaseth Travel Co.,Ltd.(THAILAND) に勤務 社長

◆ 205 年度総会様子 <https://www.facebook.com/yoneyama2660> にご確認。

CONTENTS

あいさつ 05

奨学生スピーチ 11

年間行事報告 21

募集要項・編集後記 29



Rotary

Did you know? 米山学友会の豆知識

About Yoneyama Scholarship Alumni Association

学友会とは？

本会は、元・現米山奨学生間の交流を通じて、親睦および互助を促進すると共に、国際親善・世界の平和に寄与することを目的とする非営利組織です。

イベントなどの最新情報を提供

本会は、ホームページや Facebook 等による運営を行っております。また、メーリングリストによる一斉送信も行っております。皆さまのご登録、心からお待ちしております。

Website: <http://yoneyama2660.com/>
Facebook: <https://www.facebook.com/yoneyama2660>
Email: yoneyama2660@gmail.com

学友会の会員になる方法

関西に在住の元米山奨学生 (O B .OG) 現役奨学生の方々は全員は本会の正会員、準会員とする。関西近辺にいる学友の皆さま、是非一緒に本会の活動にご協力、ご参加をお願い致します。

会費は必要ですか？

年会費は 2012 年度により廃止されました。
※但し、活動参加費のみ徴収しております。

学友の活動とは？

異文化理解から語学力発揮、ボランティア活動から地道なお手伝いまで、学友たちが力になれるところで、今までの恩に感謝する気持ちを込めて貢献しております。

あいさつ

学友会より

潘振興会長05

世界米山学友会へ
奈良教育大学数学課程

公益財団法人ロータリー

米山記念奨学会より

小沢一彦理事長06

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会理事長からのことば

RID2660 米山奨学部門より

高島 凱夫顧問06

米山学友会（関西）の皆様方へ

岩田宙造前顧問07

米山学友会（関西）について、雑感

米山奨学委員会より

福田治夫委員長07

デジタルからアナログへ

古城紀雄副委員長08

米山学友会（関西）は誇り高きパートナー

田中隆弥副委員長09

米山奨学委員会副委員長からのことば

奨学生スピーチ

2015-2016 年度奨学生

汪韵 11

私にとっての日本留学の成果

凌昊 12

私にとっての日本留学の成果

スリイザトウールビンティイスマイル 13

ハラルの食べ物を探す事に困っているか

サンウインモ 14

私にとっての日本留学の成果

肖玟岑 15

私にとっての日本留学の成果

許知蕙 16

私にとっての日本留学の成果

大切なものは、目に見えないんだ

ラクシャンテル・

マブーヘ 17

日本での暮らしと研究が私にもたらすもの

王貝 18

私にとっての日本留学の成果

崔昇天 19

速度があげるだけが、人生ではない

陳佳怡 20

私にとっての日本留学の成果

年間行事報告

報告書類

2014 年度決算書..... 21

2015 年度予算案..... 22

2015 年度行事..... 23

2015 年度行事報告

2015-2016 米山学友会の
年間スケジュール..... 23

2015-2016 海外学友会
に参加..... 24

2015 年度行事写真

行事代表写真..... 26

2016 年度 米山合同懇親
会 in Seoul..... 28

募集要項..... 29

編集後記..... 29

学友会より 2015 - 2016年度会長 潘 振興



学友のみなさま、お元気ですか？

早くも一年が経ち、会報発行の季節がやってきました。昨年から、学友会は変わらず、奨学生のサポートしながら、学友との仲を深めようという活動を行ってきました。みなさまのご参加で、活動が盛大に行い、仲間も増え、一つの輪になりました。みなさまのおかげで、米山学友会（関西）は日本学友会の中に、目指す目標されていると言われています。

そして、今年5月にロータリ世界大会 in ソウルに開催したあたり、米山学友会合同懇親会 in ソウルも開催しました。総参加者は320名ほどですが、日本各地区のロータリアン、そして、韓国学友会をはじめ、モンゴル学友会、中国学友会、台湾学友会、タイ学友会、関西学友会及び日本の学友会会友、世界からきた学友が集まり、参加してくれました。

懇親会中に、世話クラブのロータリアンと学友との交流の場となったことはもちろん、各国の学友が披露したショーを通して、学友とロータリアンの方々との絆も一層深まった事に違いありません。

今年、熊本地震がありました。去年に続き、世界中にあっちこっち自然災害に見舞われ、これからどう対処していけばよいか、我々生活の課題になり、勉強しなければいけないと思います。そして、今ここにいる私たちは何かできるのか改めて再認識しなければいけません。そのため、我々学友はもっと団結し、新しい事を創作していきたいと考えています

米山学友会（関西）の年度テーマは覚えていますか？はい、『実践躬行』です。日本米山奨学生制度で得た知識、体験した経験を母国、社会に自身の力で実際に踏み行うことを目標し、そして、決めた事に対して、最後まで頑張つて実践していきたいと思っています。

最後に、学友会はみなさまの会です。会員全員の会です。一人や二人で成り立つものではありません。よって、みなさんの力を合わせ、これからも活動を積極参加し、もっと楽しく、もっと盛り上げましょう。

公益財団法人ロータリー 米山記念奨学会より



理事長 小沢一彦

米山学友会（関西）の創立 30 周年、誠におめでとうございます。理事長としてお祝いを申し上げますことができますことは、誠に喜びにたえません。ロータリー米山記念奨学会は、2017 年に財団設立 50 周年を迎えます。50 年の間に積み重ねてきた日本独自のこの奨学事業は、ご存知のように、日本で学ぶ外国人留学生の中から奨学生を厳選して奨学金を支給し、世話クラブ・カウンセラーがお世話するという大きな特徴を有しており、着実に成果を上げてきています。

日本のロータリークラブ会員数はピーク時の 13 万人から 9 万人を切るまでとなりましたが、ここ 3 年間は増加に転じています。米山奨学生数もピーク時の年間 1,100 名から 700 名まで減少しましたが、やはりこの数年間で全国ロータリアンの多大なご支援により増加してきています。米山記念奨学事業の目的である相互理解と国際交流が益々発展し、世界平和の礎となる為に、最も重要であるのは増え続ける米山学友の存在、そこに委ねられています。米山学友は 18,648 名、学友会は海外 6 つの国と地域に、日本全国には 32 あります。今年度中にはスリランカにも学友会が誕生する予定です。学友たちと学友会活動が、米山記念奨学事業の成果の源泉であり発信元になると確信しています。私たちは、学友会の活動が更に活発となるよう支援して行きたいと思います。

2014 年に米山学友は国際ロータリー（R I）の正式な一員となり、R I 全ての事業に参加資格が

認められ、ロータリークラブへの入会資格も有することとなりました。

2016 年 5 月 29 日ー 6 月 1 日にはソウル国際大会が開催されます。5 月 28 日には学友の皆様のご努力により“米山学友合同懇親会 in Seoul”、そして 29 日の開会式後には R I 主催の“学友のタベ”が開催されますので、是非大勢で参加して頂きたいと思います。また、R I 委員会が担当する国際大会の分科会では、史上初めて今回、“米山”が参加することとなりました。モデレーターには、第 2660 地区の若林紀男常務理事が務められ、3 名の米山学友がパネラーとなります。R I 会長はじめ世界各地から集まったパスト R I 会長、シニアリーダー達の前で“米山”をアピールする絶好のチャンスです。これこそ米山学友が世界に羽ばたく瞬間であると期待しております。米山学友会（関西）の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

終わりに臨み、米山学友会（関西）の皆様の今後のご隆盛とご健勝とをご祈念申し上げます

RID2660 米山奨学部門 より

米山学友会（関西） の皆様方へ



顧問 高島 凱夫

この度は、無事米山奨学生を終了されましたことに、お喜びを申し上げます。

良く「お世話になった人に恩返しをしたい」という言葉を聞きます。またこのことは、この機関誌をはじめ多くのところで見聞きしていることと思いますが、多くの方がおっしゃっているように、皆様方がお世話になった人たちに「恩返し」が出来るまでにはまだまだ時間がかかると思います。

今、皆様方の出来る「恩返し」の一つは「皆様方が学業を終了され、社会に出て立派な社会人として世のために尽くす様な人になること」。もう一つは「皆様方が奨学生時代に経験したこと、学んできたことを次の奨学生、或いは留学生に伝え、その人達のために尽くすこと」も「恩返し」なのです。そして「米山奨学生であったことを通じて、世界の平和に貢献できる人間に成長していただきたい」というのが、皆様方をお世話させていただいたロータリアンの願いであると思います。ぜひ、私たちの願いを実現するために、奨学生を終了した暁には、米山学友会（関西）はもちろんのこと、各地にある米山学友会で今まで学ばれたことを発揮し、活躍されることを願っています。

前 RID2660 米山奨学部門 より

米山学友会（関西） について、雑感

一昨年、（財）ロータリー米山記念奨学会評議員に選ばれ、1 年余り地区の代表として活動に参加し米山奨学記念事業の素晴らしさ、意義について改めて知ることができました。地区の米山事業部門の顧問として地区委員会の皆様とも親しくお付き合いができ、色々な事業に参加し楽しい時間を過ごすことができ感謝いたしております。特に、関西学友会の事業に直接参加しその活発な活動に感激し印象深いものでした。奨学事業を意味ある、充実したものにするためには米山学友の活動が第一だと思いました。各クラブのロータリアンの参加、支持を得て事業は盛り上がります。奨学事業の使命を学友会の皆様には正しく理解していただき、ロータリアンと学友が一つになって楽しく活動を進めることが奨学事業の成功につながるものと確信しています。学友とロータリアンとのお付き合いが、地区委員だけでなく、特にカウンセラーを通じて、各クラブの人たちとも、深まることが望まれます。学友がそれぞれの国に帰られてもそれらの交流が続けられ、お互いに関係を深められ継続されていることは本当に喜ばしいことと考えます。奨学事業の使命である、日本と世界とを結



顧問 岩田宙造

ぶ架け橋となって国際社会で活躍する人材を育てるため、ロータリアンの皆様には奨学金の支援はもとより奨学事業の充実のため、関連する諸事業への積極的なご参加、ご協力をお願いします。

関西米山学友会は米山学友会の色々な意味でのリーダー的存在であり、地区としては名実ともに誇らしい存在であります。学友会主催の行事に参加し、世界各国から来た学友達が明るく、充実した留学生活を楽しんでいただいていることを知り大変うれしく思いました。さらに、また私共も、留学生の言動を通して、交流により、多少とも異文化に触れることもでき大変有意義な時間を持つことができましたことに感謝いたしております。再度申し上げますが、色々な行事を支えて下さっている地区米山奨学委員会、米山学友会役員の皆様のご尽力に感謝し、関西米山学友会の益々の発展、充実を願っています。



デジタルから アナログへ

国際ロータリー第 2660 地区
2015-2016 年度米山奨学委員長
福田治夫 (守口イブニング R C)

昨今は、デジタル制御の電子機器が日常生活を快適にしてくれています。ほんの数年前まではできなかったことが、当たり前のようにできるようになりました。例えば、スマートフォンが身近な例かもしれません。コミュニケーションツールとしては非常に便利なものです。残念ながら私はカメラの付いている電話としてしか利用できませんが、スマートホンの潜在的な能力は限りがありません。さて、人と人の付き合いに関してはどうでしょうか。デジタル的な付き合いか、アナログ的な付き合いか、どちらがいいのでしょうか？ デジタルつまり経済的合理性だけの付き合いは、仕事上の付き合いだけだと思います。人生においては日常生活が、友達との付き合いが中心の時期、仕事中心の時期、子育て中心の時期、親など身内の介護の中心の時期などが各個人によって様々な時に来ます。占いではバイオリズムと言うものがありますが、まさにアナログです。友達と仲がいい時期が有ったり、疎遠になっている時期が有ったり、長期的にみると友達との距離は、近くなったり遠く

なったりします。しかし、たとえ細い糸でも繋がってれば友情は永く続きます。

皆さんが米山奨学生・米山学友になられたのは、個人の努力もありますが、何かの「ご縁」で知り合った仲間だと思います。経済的合理性を考えずに付き合うことができるのが米山学友の仲間だと思います。

最後に「ご縁」で知り合った、米山学友の仲間、カウンセラー、世話クラブのみなさんとは、たとえ細い糸でもいいので繋がっててください。昨年の地区米山委員会のテーマは「出逢えてよかった」でした。米山での出会いを大切にしてください。真の友は苦しい時には必ず助けてくれます。ヒューマンネットワークを大切にしてください。活躍されることを期待しています。



米山学友会（関西） は誇り高きパートナー

国際ロータリー第 2660 地区
2015-2016 年度米山奨学副委員長
古城（千里 R C）

ご皆様よくご承知のように「ロータリー米山奨学事業」はわが国のロータリーの父ともいべき米山梅吉翁の遺徳を讃え、かつ「日本のロータリーにもっともふさわしい事業」として発足し、先輩ロータリアンの間断ない努力でもって、今年64年目を迎える歴史ある事業です。これまで全国区でお世話した累計 18,648 人の奨学生の皆さんはロータリー運動の良き理解者となって国内外で活躍されており、例えばこの中からすでに3名のガバナーが誕生しているなど、まことに嬉しい限りです。

ここ R I 2 6 6 0 地区でも多くの元奨学生（「米山学友」と呼ばれる）のみなさんが現在鋭意生活されており、米山学友会（関西）の旗のもとに結集されて、地区ロータリー活動への協力と独自の学習・懇親活動を展開されています。ことに地区米山奨学委員会が行います「新奨学生オリエンテーション」、「スピーチコンテスト」、「次年度奨学生選考会」などの行事では毎年欠かせぬ協力をしてもらい、委員一同深謝しているところです。学友

会と地区委員会との息の合った協働は当地区の活発な米山奨学事業を支える車の両輪とも言え、当地区の揺るがぬ誇りとなっています。

地区委員会では各行事を全員でしっかり議論・検討して進めており、何より委員同士が率直に意見を出し合って合意を形成しています。その上、立野純三 D G、松本進也 G E はもとより、財団法人ロータリー米山奨学会の常務理事の若林紀男 P G、同評議員で地区委員会顧問役の岩田宙造 P G (2014-2015 年度) 並びに高島凱夫 P G (2015-2016 年度以降)、危機管理委員会委員長の岡部泰鑑 P G の方々からも指導をいただく機会が持てており、有難いことと感謝しております。

なお、私自身は 2016-2017 年度の地区委員長を仰せつかっており、ガバナー事務局の方々も含めて、皆さまには今後とも変わらぬ協働がたよろしくお願い申し上げる次第です。

米山奨学委員会より 米山奨学委員副委員長 田中隆弥



国際ロータリー第 2660 地区
2015-2016 年度米山奨学副委員長
田中 隆弥（池田くれは R C）

先日、第 2015 学年度の米山記念奨学生の終了式が行われました。1 年ないし 2 年という短い期間ではありましたが、世話クラブのカウンセラーの皆様におかれましては、奨学生を本当に大切に育てて頂いた様子を窺い知ることができました。心より感謝申し上げます。また奨学生の皆さんは、奨学期間中に培ったロータリー精神を忘れず、今後米山学友としてご活躍を心より祈念致します。

さて、2016 年 1 月に面接試験を受け、見事合格した米山奨学生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんは 4 月のオリエンテーションで世話クラブのカウンセラーと初めて対面し、奨学生としてのスタートを切りました。世話クラブのロータリアンとの出会いにより新しい発見や多くの感動が得られると思います。「奨学生を受け入れてよかった」「奨学生を通じ、米山奨学事業を深く理解することができた」とカウンセラーや世話クラブの各ロータリアンに思ってもらえれば幸いです。

私が米山奨学生選考委員に委嘱されたのは 4 回目となりますが、書類選考の段階で今回初めての経験をしました。提出書類に誤字・脱字がとて多かったのです。

担当した学生の半数近くがそうでした。さらに訂正する際には黒く塗りつぶしてすぐ下書き直すようなことも多く見受けられました。「提出前に指導教官などに見てもらったのですか？」と尋ねると異口同音に「見てもらっていません。」と。自筆で書くという機会が減っているのかもしれませんが、きれいに書くことはできなくても丁寧に書くことは誰にでもできます。今後履歴書等を提出する際には是非気をつけて頂きたいものです。

地区委員会では各行事を全員でしっかり議論・検討して進めており、何より委員同士が率直に意見を出し合って合意を形成しています。その上、立野純三 D G、松本進也 G E はもとより、財団法人ロータリー米山奨学会の常務理事の若林紀男 P G、同評議員で地区委員会顧問役の岩田宙造 P G（2014-2015 年度）並びに高島凱夫 P G（2015-2016 年度以降）、危機管理委員会委員長の岡部泰鑑 P G の方々からも指導をいただく機会が持てており、有難いことと感謝しております。

2015-2016 年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト



私にとっての日本留学の成果
～手をつないで輪をつないで～

大阪ハイテクノロジー
日本語学校
汪韻（中国）
世話クラブ：大阪うつば R C

時間は矢のように流れ、瞬間に日本に留学して 1 年が過ぎました。今回のスピーチのテーマは「私にとっての日本留学の成果」です。どうしよう、日本語の会話力と和食ダイエットもまだ成果が出ていないのに…。そこで、この一年を振り返って見ました。ひとつだけですが、私の中で小さな気づきがありました。今日はそれをご紹介しますと思います。

私は 2013 年の夏、大学の提携校である大阪ハイテクノロジー専門学校で 1 ヶ月の研修に参加しました。初めての日本、関西空港へ到着したとき、私たちを待っていたのは研修担当の先生と私たちより 1 年早く日本に留学した先輩たちでした。先輩たちは研修の間、嫌な顔を一つせず、観光や施設見学の際に通訳をしてくれました。外出時の移動では「皆、前につめて歩いて、列から離れないで」と私たちに声をかけてくれました。病気になった友達を病院へ連れて行ってくれたこともありました。研修の最終日、私が先輩に感謝の気持ちを伝えると、先輩の口から出た言葉は「当然だろう」という一言でした。「えっ、何が当然なの？」中国の学校ではクラブ活動もほとんどなく、寮でも同級生同士が同じ部屋になるため、先輩が後輩に世話をするという考え方はありません。それに私たちの年代は一人っ子が多く、年上の子が年下の子を面倒を見ることにも慣れていません。そのためこのとき、先輩の言葉を聞いた私は「ああ、この先

輩は、情が厚くて、面倒見のいい人なんだ」そう思いました。

2014 年、10 月、日本に留学しました。留学してまもないある朝、私は不思議な光景を見ました。それは学校へ登校している小学生のグループです。上級生が下級生を間に入れて、手をつないで、歩いていました。先頭の子は「通学班長」という腕章をしていました。そして横断歩道を渡る時、黄色い旗を揚げ、皆を誘導していました。

不思議に思って、学校の先生に聞くと、それは「集団登校」というもので、みんなと一緒に登校する中でいろんなことが学べるのよ」と教えてくれました。この小学生だけの小さなグループの中で、時間や交通ルールを守り、先輩としての責任感や思いやりなどが自然に身に着くようになるんだ！そのとき、去年、先輩に言われた「当然だろう」という言葉を思い出しました。きっと先頭の子は低学年のとき、先輩に手をつないでもらったに違いありません。「当然だろう」、それは、「先輩なんだから自分が手をつないでもらったように、後輩の手をつないで、面倒を見るのは当然だろう」ということだったのです。

今年の夏、母校から後輩の研修生が 50 名、一ヶ月の研修に来ました。同級生の中には、大切な日本語の試験の前に、後輩に世話な

んかしたくないという人にもいました。でも、私は去年、先輩に助けてもらったように、後輩を手伝いました。最後の日、後輩から「汪先輩、ありがとうございました」と言われたとき、「当然よ、私も先輩に助けてもらったの、そのときとても嬉しかったから」と言いながら、自分も「後輩に喜んでもらったという喜び」を感じています。来年、この後輩の中から、次の後輩へ手のぬくもりを伝えてくれる人が、きっと出てきてくれる、そう願っています。

手に手をつないでつくる友の輪、輪に輪をつないでつくる友垣。

私は今、ロータリーの皆さんや留学生の先輩の皆さんからたくさん手の温もりをいただいています。今はまだ、ロータリーの奨学生として何もお返しができていません。でも、いつかこの手にいただいた温もりを誰かの手に伝えたいと思います。「手に手、輪に輪」このロータリーの歌の意味に気付けたこと、そして、「当然よ、私も先輩として手伝って嬉しいよ」そう思うようになったこと。これが私の留学の成果です。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト



私にとっての 日本留学の成果

関西大学
総合人文学専攻
凌昊（中国）
世話クラブ：箕面RC

みなさま、こんにちは。中国から参りました凌昊と申します。箕面ロータリークラブにお世話になっております。今は、関西大学文学研究科の博士3年生です。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「光陰矢の如し」と言います通り、故郷を離れて日本に住み7年が経ちました。この7年間の留学生活が、人生の味をつける調味料のような存在になっています。これらの塩、砂糖、酢のような様々な体験は、お金では買えない人生の富を贈ってくれました。これら沢山の富の中から、3つのキーワードを軸にして、非常に印象深かったことを、皆様と分かち合わせてください。

1つ目のキーワードは「自信」です。修士2年生の頃、指導教授が定年退職されました。別のゼミに入ることで、修士論文を書くこと、この2重の問題に直面してしまいました。ストレスがたまり、夜寝られなくなりました。ある日、同じ専修の先生が私にこう言いました。「凌さんだったら絶対いける。」あの頃の私にとっては光のような言葉です。自信のなかった私は、なぜ夢を叶えるのか？自分に自信がないのに、他人から信頼される存在になれるのか？を考えさせられました。「自分を信じなさいよ。負けても終わりではない。」と自分に言いかけながら、たゆみなく努力していくうちに、だんだん物事がうまく運ぶようになりました。そしてついに、

先生方のご指導のおかげで、8万字の修士論文を完成させることができました。無事に博士後期課程に進学でき、今、人生の恩師の下で研究を続けることができております。

2つ目のキーワードは「信用」です。京都でバスに乗った時に起こったことです。事前確認をしていなかった私は、運賃を払う時、両替のできない五千円札しか持っていないで、不安に思いながら、運転手さんに話したら、「大丈夫ですよ。次回合わせてお願いします。」と言われました。そんなに簡単に人の事を信用できるのか。と驚きましたが、約束した通り、次にバスに乗った時、2回乗車分、合わせて440円を入れました。それ以降、信頼がいかに人間関係を構築する上で大切なのか、に気付きました。人から信用されること。その為にも、まず人を信じる事。そして一生懸命物事に取り組み、周りの人々から信頼される人間になりたいです。信用される人は素晴らしい人で、その信頼をこつこつと築き上げていける人生は、素晴らしい人生だと思っています。

最後のキーワードは「責任」です。日本に来てから、さまざまな種類の奨学金をいただきましたが、米山のように新たな人生観を持つことができた奨学金をいただくのは、初めてのことで。昨年の4月に米山の一人になって以来、皆様と一緒に活動に参加

し、新たな一面に触れることができました。お世話クラブのロータリアンと一緒に箕面川を掃除し、私たちが住む町を綺麗にすること、学友と一緒にネパール地震支援募金活動に協力すること、それらは確実に「奉仕」「貢献」を意味します。こういう活動の機会を頂いたロータリアンへの感謝を込めながら親善活動に参加し、周囲から自分自身も喜びを感じられることは、他人への思いやりにも繋がることを実感致しました。以上のエピソードを以て、「奉仕」「貢献」を含む「責任」の意義も深く自覚できました。

日本に来る前の私は、20歳で、まだまだ未熟な子供で、やりたいことが全くわからず不安感が強かったです。日本での留学生活は素晴らしい人生に向かうための勇気を与えてくれたと同時に、日本で出会えた人々の暖かさが私の心を豊かにしてくれました。自分が思い描いた素晴らしい人生を味わえるように、人生がもっと輝けるように、そしてロータリーの精神を広げられるように、これからも日本で学んできた「自信」「信用」「責任」を肝に銘じて、感謝の気持ちで前向きに生きていこうと思っています。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト



ハラールの食べ物を 探す事に困っているか

大阪大学
生命先端工学専攻
ヌルイザトゥール・ベンティ・イスマイル（マレーシア）
世話クラブ：大阪城南RC

みなさん、おはようございます。私はヌルイザトゥールです。マレーシアから来ました。今お世話になっているのは大阪城南ロータリークラブです。もう半年以上になりましたが、米山奨学生になってからいろいろなことが経験できました。この機会を与えていただいた皆様に大変感謝しております。本当にありがとうございます。今日は、「ハラールの食べ物を探す事に困っているか」についてスピーチをします。

私は現在大阪大学博士前期課程2年生で、2010年に日本に留学しに来ました。今年で、日本にいるのは6年目です。最初に日本に来た頃は、文化や言葉だけでなく食べ物についても困難がありました。和食の味が口に合わないという問題ではなく、食べられる物があまりない、という困難です。どうということかと言いますと、私の格好を見るとわかるように私はイスラム教徒です。宗教上の理由で、食べられるものが限られています。イスラム教の教義に従って処理されてない肉は食べてはいけません。それだけでなく、他の肉の成分でも教義にのっとって屠殺した動物でないと食べてはいけない、というルールがあります。しかしながら日本はイスラムの国ではないので、イスラムのやり方で処理されたものを手に入れることはなかなか難しいです。レストランでもハラールものを提供しているところは少なく、

大きな都市でなければ食べられません。普段は、自分で料理を作るか、外食の際には魚をメインに扱っているレストランに行くようにしています。外食の際には、メニューを見ても言葉がわからず、禁止されているものを食べてしまったこともありました。その時には、反省の気持ちも込めて、「これからもっと気をつけなければならない！」と自分に言い聞かせました。それ以来、外で売っている食べ物を食べるのが少なくなってしまいました。

しかしながら、決して悪いことばかりではありません。最近では、日本でもハラールの食べ物が流通し、ハラールの食べ物を提供するレストランが増えています。大きな都市だけでなく、小さな町でもハラールのレストランを見つかることがあります。パキスタンのようなムスリムレストランだけでなく、日本料理のお店でもハラールの料理を出しているところがあります。たとえば、以前は、焼き肉、しゃぶしゃぶ、ラーメンなど、日本で食べられるなんて、思ってもいませんでした。しかし最近ではそういった食べ物をハラールで提供してくれるお店があります。ちょうど先月にハラールラーメンのお店が開店し、そこへ行ってみました。6年間日本にいるのに、ラーメンを食べるのはこれが初めてでした。周りの人からは「ラーメンはおいしい」といつも聞いていました

が、一般のラーメンが食べられない私には、そのおいしさが想像できませんでした。その店が開店したおかげで、ついに私はそれを試すことができました。ラーメンは周りから聞いていた通り、とても美味しかったです。これから、よくあの店に行くかもしれません。こういった変化は店だけではありません。以前は、ハラール肉や食材はインターネット上や、お祈りを行う場所ですら売られていませんでした。しかし最近では、スーパーでも売っていることがあります。このことは私にとって非常にありがたく、食材を購入する際に大変助かっています。

米山のイベントに参加するときも、食事に関する問題はほとんどありませんでした。イベントでは、いつも私が食べることで料理が用意されていました。皆さんはいつも私が食べられるものを親切に用意してくださり、「今回は食べられるものはありますか？」と尋ねて下さいます。本当にありがとうございます。私はムスリムなので食べられるものが限られていますが、ハラールのものが日本にだんだん広がってきて、周りの方々が私が食事を楽しむサポートをしてくださいます。そのおかげで、私は日本でも食事にあまり困ることなく、過ごすことができます。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト



大阪産業大学

現代経済システム専攻

サンウィンモー（ミャンマー）

世話クラブ：大東中央RC

私にとっての日本留学の成果

私はサンウィンモーと申します。出身はミャンマーです。現在、大阪産業大学経済学研究科で勉強している大学院一年生です。

日本に来て5年目になります。その間、いろいろな成果を得られたと思います。その中で、一番大きな成果は自分で考え判断することを覚えたことです。このことは日本では当たり前のことかもしれませんが、私の母国ミャンマーは軍事政権の国です。軍事政権の国では情報、特に政治に関する情報が統制されていて、国民は正確な情報を得ることができません。学校で政治のことを勉強したこともありませんでした。そのため、政治に興味をもつことはありませんでした。大統領がだれになっても、自分と関係がないと思いつつ、毎日、食べること、遊ぶことばかり考えていました。

日本に来てから私の意識が変わるようになりました。大学では政治のことも勉強できるし、テレビでも政治のことが放送されるので、政治についてだんだん興味を持つようになりました。私がミャンマーにいた頃、ミャンマーのテレビでは政治のことが放送されていませんでした。そのため、ほとんどの国民は政治に関心がありませんでした。

それでも、最近、ミャンマーでは選挙のことが話題になっています。今月の8日に総選挙が行われました。しかし、ほとんどの人は政治のことが分からないので、誰に投票したらいいか分かりませんでした。そういう人たちは他の人の話に流され、他の人たちがやるとおりに投票していました。なぜ、そのように他の人の話を信じ、その人たちがする通りに行動するのでしょうか。なぜ、自分の国に必要な大統領を自分で考え、情報を調べ、判断しないのでしょうか。

原因は教育不足だと私は思います。教育をちゃんと受けていれば、他の人の話に左右されず、何事についても自分で考え、自分で判断し、行動できると思います。私ももし、日本に留学していなかったら、他の人の話の通りに投票するかもしれません。日本に留学したからこそ、自分の国の政治に興味を持ち、自分の国のことを考えるようになりました。それは大きな成果だと思います。

私はもともと、ミャンマーの貧困問題の解決には教育が重要だと思い、ミャンマーの貧困と教育について研究するために大学院に進学しました。しかし、貧困問題以外でも教育は非常に重要だとわかりました。ミャンマーの人たちも政治を含め、自分の興味があることを自由に勉強できる日本のような教育が受けられるようになれば、ミャンマーは変わると思います。

そのため、私は将来、ミャンマーで就職し、仕事をしながらミャンマーの教育のボランティア活動をやりたいと思っています。日本に留学して本当に良かったと思っています。日本に来てから物事の見方も少しずつ変わって来ました。帰国後は日本で学んだ日本の文化、日本人の寛容な心、日本人の考え方などを周りの人々に伝えたいと思います。

今私は米山奨学生として大東中央ロータリークラブでお世話になっています。カウンセラーさんを始めたたくさんのロータリアンの方々が、私の将来の夢を親身になって聞いてくださり、その実現のために何をすべきかアドバイスをくださいます。卒業後もこの人間関係を続けることができれば、それは私にとって一番大きな日本留学の成果になると思います。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト



大阪大学

創成薬学専攻

肖玫岑（中国）

世話クラブ：千里メイプルRC

中国出身の2015年度の奨学生しょうみんつんです。今、千里メイプルクラブにお世話になっております。今日、このような場で、お話をする機会を与えていただき、とても光栄に思います。どうぞ宜しくお願い致します。

私は2年前に大阪に来ました。当時に日本の常識に関して何も知らなかったので、飛行機に乗っていた時に、非常に不安でした。日本語が中途半端でしたが、入国審査が無事に通りました。しかし、当日は土曜日でしたが、研究室の人が同窓会を行っていたため、迎えてくる人がいませんでした。自分で電車を乗って寮へ行くしかありませんでした。電車の乗り方が分からなくて、日本語が下手だったので、駅係員さんに聞くのは難いと思って、結局に30分かかってしまって、チケットを買いました。夜に寮へ到着したら、ドシンドかったです。自分がこんなに内気な人で、これから、日本での留学生活が大丈夫かねと悩んでいました。

現実には自分の思い通りです。大丈夫ではなかったです。研究室で留学生が僕一人しかいませんので、メンバーとコミュニケーションが難しかったから、気持ちとかを理解してくれなかったし、日本語で研究報告することが困難だったし、さらに、研究の方にもあんまり進まなかったし、とにかく、全てのことがやばかったです。「人生は難しいわね!」「日本が怖い、母国に帰りたい。」と思いました。絶望感が胸にいっぱい溜まりました。何も

やりたくない気持ちが出てしまいました。

このままであれば、自分が絶対うつ病になると思います。ちょうどその頃に、大学のイベントのコンサートを準備するためにボランティアを募集していました。「ボランティアの経験がないので、自分が本当にできますか。」「違う!」「これはチャンスだ!絶対逃げさせない。」と心の中で戦争を起こって、結局、「参加」の思いが勝って、応募を決意しました。ステージ担当の手伝いとして、演者の人や音楽調整のスタッフと話し合いを重ね、いい演奏条件を作るようにみんなと一緒に頑張りました。その結果、コンサートが大成功でした。その後の打ち上げではみんなとお酒を飲んで、笑顔を見て、自分の胸に何か暖かい感じが湧き起こってきました。自然に周りの人と会話したり、笑ったりしました。

以前の自分が未知のことがあったら、何も知らないから、まず怖いと思ってしまいました。そう思ったら、やる前にもうやる気なくて、辛いことになるのが当たり前です。少し考え方が変えて、未知の事について、何も知らないのは当然です。そして、未知の事はよいと良くないという両面があると思います。未知のことが試さないと、どんな結果になるのはわかりません。その良いことを期待して、絶対やる気があります。やる気があれば、良い結果を得る可能性が高いです。このような考え方を持って、僕は積極的に研究室の同士と会話して、一緒に飲み会へ行っ

て、だんだん仲良しになりました。「肖君がだいぶ変わったね。以前みんなと何も話をしてくれない。何を考えてわかんないので、変な人だと思った。案外に面白い人だね。」と周りの人に言われました。自分が本当に変わりました。

そして、ロータリー米山奨学会に入ってから、ただ半年ぐらいですが、たくさん貴重な経験がありました。宝塚歌劇団を知った際は、女性だけの劇団を今まで見たことがなかったのびっくりしましたが、実際に公演を聞き、感銘を受けました。オペラの内容を分からないですけど、聞いたらなんか感動しました。神戸港に船に乗って夜景を見ながら、宴会することがこういう感じですか。僕の視野を結構広げました。日本はおもしろいですね、将来を期待します。私にとっての日本留学の成果はなんですか。たぶん自分を見つめ直すことができたことです。周りの環境が大きく変わったことで、これまでとは違う視点から自分を見ることができるようになり、視野が広がりました。自分ももっといい人間になる方向を見つけています。

これからもロータリー米山のご縁を続き、もっと未知のことを体験して、常によりよい自分を目指して努力を続けたいと考えています。

ご清聴ありがとうございます。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト

私にとっての日本留学の成果
大切なものは、目に見えないんだ

関西大学
商学部
許知蕙 (台湾)
世話クラブ: 東大阪みどり RC

「ぼくは君にとって、十万ものキツネたちと同じ、ただの一匹のキツネにすぎない。でも、君が僕をなつく（僕と絆を結ぶ）なら、僕たちはお互いが必要になってくる。君はぼくにとって、世界中で唯一の存在となる。僕も君にとってかけがえのないものになるんだ。」

これは、星の王子様という名作の中で、キツネが王子と対話する重要な場面です。キツネが言った「なつく」とは、「絆を結ぶ」ということです。しかし、「絆を結ぶ」ことに目に見えるカタチはありません。同じ目標・精神をもってお互いに信じ合いながらともに何かに力を注ぐこと。しだいに、何かをささやかな関わりが日々積み重ねて、一日一日と仲良くなっていくこと。そうすることで、かけがえのない絆は必ず生まれると、キズネは教えてくれるのです。

10万分の1が、1分の1になる。人との繋がりこそやってきていくのです。

ロータリー米山奨学金制度も同じ役割を果たしていると思います。何十万人以上の留学生と何千万人以上の日本人の間には、米山奨学金制度が存在しなければ、その人たちはただ路上でのすれ違いの人たちです。しかし、米山奨学金制度が介することで、米

山奨学生に選ばれた私たちは世話クラブのカウンセラーおよび多くのロータリーアンたちとの絆が芽生えられます。

今まで参加したロータリーの行事の中で一番印象深いのは、ネパール大地震の復興を祈願するために行われた行事です。ロータリーフェスティバルで、募金箱をあっちこちに持回って、ネパール復興支援募金活動に力を入れました。また、7月の米山総会で、学友と現役奨学生たちがネパール特集を企画し、伝統的なネパールの歌とダンスを披露しました。舞台ではただ10分ほどのパフォーマンスだが、実は沢山の心血を注ぎました。皆の目標は一つだけ：ネパールが一日も早く復興できることです。

ネパールは自分の国でなくても、そこに住んでいる奨学生および学友たちを自分の家族のように心配し、自分の国のように早く建ち直したいと心が焦っていました。そのような感情は、正にロータリーの精神であり、目に見えない大切なものだと思えました。ロータリー米山は、私たちの手に手をつなぐだけでなく、一人ひとりの心も牽引しています

就職活動をしている間は、クラブの皆さんがいつも「頑張れ!!」と熱く応援してくれました。また、学友の先輩たちからにも

多くの就職経験とアドバイスをいただいたおかげで、希望会社からの内定をいただきました。就職活動を通じて、「どんな結果を出したかより、結果を出そうと努力する道なりを経て、どんな人間に成長したかということの方が、重要だ」とあらためて感じました。また、自分が諦めずにやり抜いたこそ、精神的が強くなり、人間的にも成長することができると思います。

日本留学を通じて、国際理解・知識の拡大、語学力の向上など能力や可能性が広がるという成果が実りました。しかし、米山奨学生に選ばれ、広く国際活動を通じて多様な人々と出会え、ともに国際親善の価値観を共有しながら、時代・国境を越えて心から共感し合え、お互いに助け合うことができるのは、私にとってお金で買うことのできない、最も大きな収穫となっています。

日本留学の期間、カウンセラー、および多くのロータリアンの方々からいただいた沢山の御恩を忘れず、米山奨学生となって得た経験を生かして、日本と母国との平和の架け橋となり活躍していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト

日本での暮らしと研究
が私にもたらすもの

大阪大学
人間科学専攻
ラクシャンドル・マハブード (イラン)
世話クラブ: 大阪東RC

みなさん、こんにちは！

日本への留学は私の生活において、暮らしの面でも研究の面でも大きな影響がありました。

私が初めて来日した時は、私は娘を妊娠していました。日本語もまったく話すことができず、勉強も続けていきたかった私にとっては、日本への来日は人生での大きなチャレンジでした。病院のお医者さんやスタッフ、日本人の友達はみんな日本語ができない私を一生懸命に助けてくれて、私は無事に元気な女の子を産むことができました。

日本の保育園の制度にも大変満足しており、朝早くから夕方遅くまで子供を預かってくれるのはとても助かっています。保育園の先生方も心から子供たちと触れ合ってくれて、親としてとても安心して預ける事ができます。私の国では子供の保育は朝から昼くらいまでしか行われません。費用も比較的高いものです。所得があまり高くない学生にとって、国の援助が考量されている保育園の制度はとても助かります。保育園も大変楽しいプログラムや保育方法で運営されており、私の娘は毎日、早く保育園に行きたいとせかします。

勉強面では専攻している分野は社会学の領域であり、大変気に入っています。教育の国際化を専攻していますが、比較的新しい分野であり、母国でこのような専門を勉強・研究する事は難しいです。所属している研究室もやはり国際的な研究室で、色々な国籍の学生や研究者が在籍しています。さまざまな国の教育システムや文化について議論ができる場なので、たくさん学ばせていただいています。来年の4月からは

同じ研究室で博士課程に進学するつもりです。

日本での生活は、暮らしの面においても研究の面においても、私にとっては良いことだらけの経験であったといっても過言ではありません。その中でも一番印象に残っていて関心している事は、日本の人々の優しさと社会の秩序です。このような優しい人々とこのような素晴らしい社会で暮らしてきている事を大変うれしく思っています。できれば、将来、日本の人々と社会から受けた恩を何らかの形で返せればと願っています。そのためにも、今後も研究に一生懸命に励み、大いに勉強を楽しんで、論文発表等の結果を残し、学問に、そして社会に、少しでも貢献したいと強く思っています。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト

私にとっての 日本留学の 成果

大阪大学
言語文化研究科
王貝（中国）
世話クラブ：大阪リバーサイド RC



私は、2010年の10月に、日本に留学しに来ました。過去5年間の留学生活の道を振り返ってみると、感無量でいろいろな思いが出てきました。私にとって、日本留学の最大の成果は、「心の成長」です。

2010年10月9日は今でも忘れられない、両親と空港で別れた日です。私にとって、これは生まれてはじめて、長い間両親と離れることになりました。

中国の大学から卒業した後、同級生たちはほとんど就職して、親孝行ができるようになりました。しかし、私は「将来大学で日本文化と日本語を教える」という夢を実現させるために日本に留学することを決めました。生活費は自分で何とかカバーすると決心しましたが、学費は両親からの仕送りに頼らなければなりません。両親と別れた日に、自分の夢のためにこの道を選んだことは正解か、それとも同級生のように早く就職して親孝行をすることが正解か、と心が激しく揺れました。

飛行機に乗った私は決心をしました。早く知識を身に付けて、学位を取って、両親のそばで自分の夢をかなえようと。これは、私の心の成長の第1歩でした。

この信念を持って、私は勉強とアルバイトを両立させながら、大学院生になりました。

1人で日本で生活するのは、もちろん孤独感があります。生活上のこと、例えば、ご飯を作ること、ものを修理することなど、いろいろと自分でやらなければなりません。私にとって、このようなことは困難ではなかったです。修士2年生の時に、ある日、自転車のチューブが破れたことに気が付きました。日本では、チューブを修理・交換することは、私にとってとても高かったため、百均で修理キットを買ってきて、自分で修理しました。

生活上は特に困ることがなかったのですが、精神の面において、孤独感を感じました。私はいろいろな壁とぶつかり、そして壁を乗り越えることに努力しました。いつのまにか、自分は問題を直面して、それを解決しようと、積極的にチャレンジするような人に成長できました。

また、孤独を感じたとき、困ったときに、クラスメート、友達などは私を助けてくださって、いろいろと私を励んでくださいました。私は、助けられるうちに、暖かさを感じました。今の私は、できるだけ人を助けたり、暖かい言葉を送ったりするように心がけるようになりました。「心の暖かい人でありたい」という考えが芽生えました。この暖かさを、私の手から、より多くの人に送りたいという気持ちになりました。2014年に、私はロータリー米山奨学金と出会いまして、心がさらに成長できました。ロータリアンの皆様の姿を拝見し、奉仕活動に参加し、「社会奉仕の精神」や「平和親睦の理想」について、理解を深めました。私は、以前、両親や自分のこと、目の前のことばかり考えていました。今は、目の前のことだけでなく、私はこの世界のために、何ができるかを考えるようになりました。自分の身につけた知識を生かし、架け橋の役割を果たし、日本と中国の文化の交流に貢献したいと思います。いつか自分もロータリアンのように世界親睦に確実な貢献をしたいと思います。

私にとって、日本留学の最大な成果は、このような「心の成長」です。これをステップにして、次の目標に向かって頑張りたいと思います。

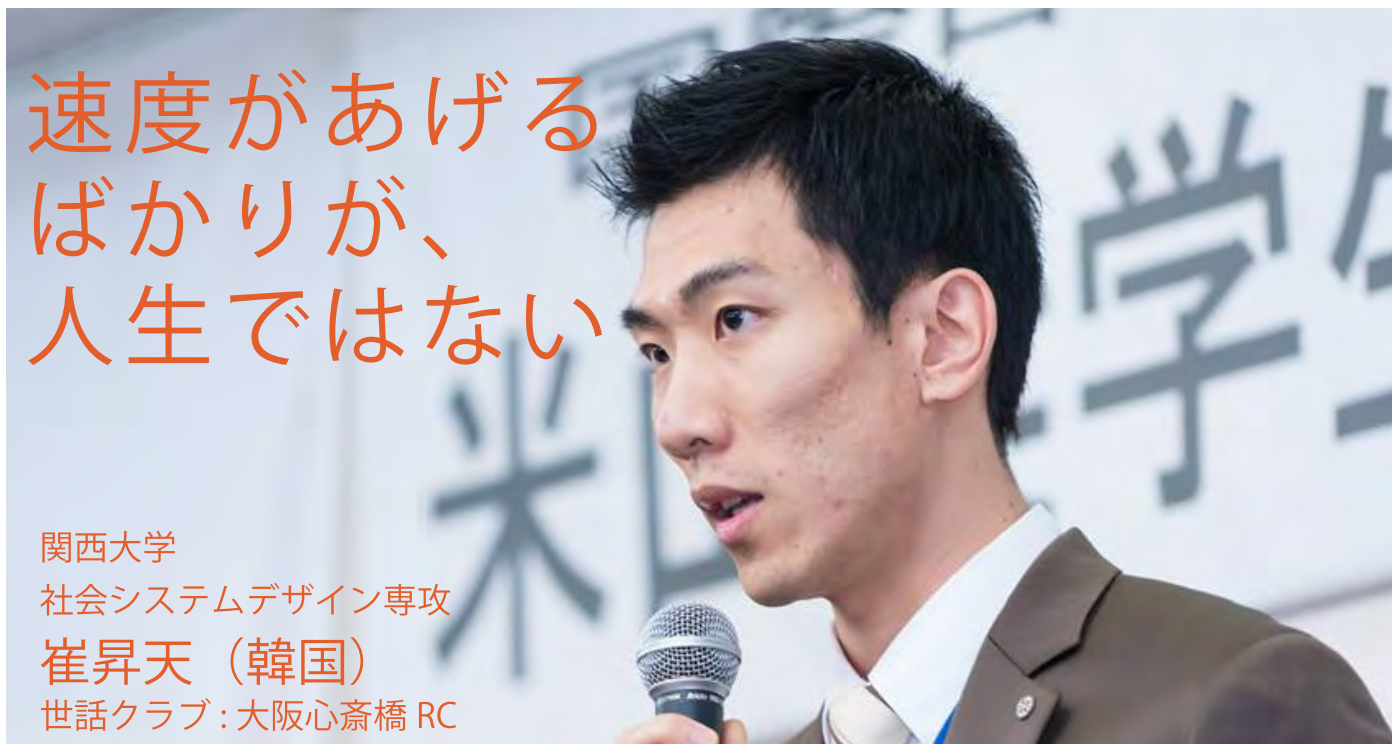
私と同じような留学生のみなさん、将来、自分の国と日本の架け橋として活躍できるように、頑張りましょう。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト

速度があげる ばかりが、 人生ではない

関西大学
社会システムデザイン専攻
崔昇天（韓国）
世話クラブ：大阪心斎橋 RC



「速度を上げるばかりが、人生ではない」マハトマ・ガンジーの言葉を大切に心に刻んでいます。

21歳に大学へ入学、4年ほど遅れた時期に軍隊への入隊、そして20代後半に日本への留学。他人から見ると、私は、少し遅れた人生を過ごしてきました。

高校生の時から急激に変わり始めた家の経済状況。そのため、私は大学入学を自ら辞退し、2年間浪人生の生活をしました。アルバイトと受験勉強を並行しつつ、自ら学費を稼ぎ、高校卒業3年後、私はようやく大学に入学することができました。大学に入学してからも、学費や生活費を稼ぐため、深夜2～4時までほぼ毎日アルバイトをしました。そして、大学3年目、兵役義務のため、他の人々より4年ほど遅れた状態で、軍隊に入隊致しました。

浪人生の時から、入隊するまで、私は自分の人生は他の人より遅れていると思っていました。そのため、他の人より遅れた分、急がないといけない、もっともっと早く、と常に思いつつ、プレッシャーを感じていたのです。

その中で、兵役義務が終わっていく頃、自分の将来について深く考えたことがあります。遅れた人生を過ごしている私は、あと1年後、5年後、10年後、韓国で何をしているのだろうと。その時、たった1年後に何をしているかすら想像がつかないまま、このように不安感を抱いて生きていくよりは、日本へ行って何でもやってみようと思っ

るようになりました。

しかし、日本へ来るまでの過程はそう簡単ではありませんでした。あんまり裕福な家庭ではなかった私は、両親から金銭的な支援ができない状況であったため、兵役義務を終えてから1年間、日本語教師、免税店の職員、バーテンダー、この3つの仕事と日本語の勉強を並行しつつ、日本へ来るための準備を始めました。1年間、毎日寝られる時間は、たった3-4時間に過ぎませんでした。今考えてみると相当ハードなスケジュールだったと思いますが、両親に負担を与えず、自らの力で日本へ行きたいと考えたため、毎日が楽しく過ごせました。

来日してからも、日本語学校に通いつつ、仕事をしていたため、韓国での生活と大きくは変わることはありませんでした。しかし、自分の中で大きく変わったのが一つあり、それは昔のように、自分は他の人より遅れているから、急がないといけない、もっともっと早く、と思わなくなったことです。

なぜなら、人生において速度を上げるだけが重要なのではなく、どの方向に向けて、どのように自分の道を作っていくかがもっと大事であることに気付いたからです。

人の人生は、一本の縄（なわ）だと言います。その縄は人によって、細かったり、太かったり、様々で、自分で伸ばしていくものです。その縄に、人生を生きていく上で、色んなことが絡まって、太く長い縄になります。きっと今は、皆さんと私の縄は人生で関わりあって、絡んでいるのでしょう。

特別な目的もなく、ワーキングホリデーとして4年前来日し、現関西大学大学院に進学し、ロータリーの皆さんに会い、皆さんと私の縄が絡んでいること、そして、今この場に立ってスピーチできることなど、この全ては、韓国での自分の時間が少し遅れ、様々なことを経験するなかで、日本への留学を決意したからだと思います。

私は今後も、少し遅れた自分の人生をハンディキャップとして思うのではなく、ロータリーの皆さんとの出会いに導いてくれた貴重な経験だと考えながら、ロータリーの皆さんとの縄を太く、長く編んでいきたいと思っています。

「速度を上げるばかりが、人生ではない」大切に心に刻んでいるこの言葉を、自分の経験から感じたことが、私にとって日本留学の最大の成果です。

皆さんは今、どの方向に向けて進んでいますか？ 速度を上げることに集中したあまり、周りのことを見逃してはいませんか？

新幹線に乗っている時に見逃してしまうことが、在来線に乗ると見えてきます。人生もそうです。

時には、速度を重視した新幹線はなく、在来線のような人生も悪くないということ、最後の言葉としてお伝えさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

2015-2016年度奨学生ふれあいスピーチコンテスト



皆様こんにちは
私は中国留学生の陳佳怡と申します。大阪教育大学の学校心理学専攻心理学コースで勉強しています。
今、お世話になっているクラブは大阪ユニバーサルシティロータリークラブです。今日はクラブの方もお忙しい中、わざわざ応援に来てくださって、とても嬉しいです。
2011年10月3日、日本に着いた時のことはまだはっきりと覚えています。日本に来て私は、生まれて初めて1人暮らしをしました。そして外国人として、海外での生活をスタートさせると同時に異文化を体験しました。
まず通い始めた日本語学校では、たくさんの国の人が学びに来ていました。中でも特に仲良くなったのは、サウジアラビアの友達です。ある日、みんなと一緒に食事をした時、彼はなんと手で食べ始めました。子どもの頃から、礼儀正しくお箸とかを使って食べべきと教えられていた私にとってはショックでな出来事でした。彼になぜ手で食べるのかを聞くと、手で食べる理由はいくつもありますが、その中の一つは手から分泌したある酵素を食べ物と混ぜて食べたら、消化しやすくなると話しました。そのとき、「なるほど」と私は思いました。その頃の私のように、手で食べる理由を知らない人なら、「手で食べる人は野蛮人」と思うことでしょう。
日本語学校を卒業し、段々と日本の方との交流が多く増えてきました。私は早く日本の方と仲良くなりたいという思いで、近づ

いたら、無言の距離感を感じました。日本の方は何かふざけたり冗談言ったりした後は必ず「ごめんね」と言うし、どんな些細なことでもきちんと「ありがとう」を言います。中国では「自己人」という言葉があって、それは自分と親しい人のことを指します。「礼儀なんか気にしないでいい」と言われるとそれは「自己人」の仲間入りの証明です。「自分に対していちいち感謝したり謝ったりするのはおかしい」と思います。逆に急に礼儀正しくされたら、相手も「距離を置きたいのではないか」と感じていました。中国でたくさんの親しい友達に恵まれていた私はだんだんと孤独感、無力感が湧き上がってきました。私には日本で友達ができないのではないかととても不安になりました。
しかし、これはサウジアラビアの友達の食事の仕方と同じく、異文化よっての誤解だと今は、わかるようになりました。
日本は常に礼儀を重んじる社会です。どんなに親しき仲でも礼儀を重んじ、プライバシーを尊重します。一方、中国では少しでも仲良くなれば、親友のように親密になります。よって日本人から見れば中国人はべたべたと礼儀知らずだし、中国人から見れば日本人は他人行儀の冷たい民族だと思ってしまう。
しかし、日本人の独特な距離感が生み出した「和の社会」。日本の暮らしやすさは世界公認です。街がきれいで、交通が便利、食材が充実していて、常に微笑んでいる店員さんやいつも挨拶してくれる警備員さん、信

号が変わっても渡るのを待ってくれる運転手さんなど。日本人にとって当たり前ですが、実にすばらしい風景です。このやさしさを人に伝えるには絶妙な距離感を保つことが必要だったのだと思います。日本人はできるだけ他者を傷つけることを避けます。常に他者を意識していることによって誕生した日本の「迷惑文化」。自分が少し苦労しても人に迷惑をかけたくないひとがたくさんいます。その日本の考え方から、今の日本では「一人ブーム」が進んでいると言われています。「一人ご飯」「一人カラオケ」「一人旅」等あります。この文化が分からない外国人から見ると、冷たい民族と思われてしまいます。

私が大学院で学んでいる心理学の対象は、人の心理です。これは抽象的なもので、目に見えないものです。でも、人の行動により、人の心を推測することができます。異文化理解も、心理学も相手のことを理解しようと思えば、誤解を解決し、理解できるようになるでしょう。
ロータリー米山記念奨学生では、たくさんの国の人が集まっています。これからも、たくさんの国のみなさんとの交流を通して、いろいろな角度から、異文化体験を楽しみながら学習していきたいと思っています。

御清聴ありがとうございました。

ロータリー米山学友会(関西)2014-2015年度会計報告

ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2014年度会計収支決算書

自2014年7月1日
至2015年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	494,244	
特別補助金	310,000	国際ロータリー第2660地区
特別補助金	154,560	2660地区米山奨学委員会
会報補助金	62,922	米山記念奨学会
総会収入	838,000	
寄付金	77,000	
総会補助金	138,000	米山記念奨学会@3,000×46
懇親会収入	888,000	
懇親会補助金	63,000	米山記念奨学会@3,000×21
利息収入	98	
総計	3,025,824	

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	167,130	
会報作成費	125,844	
総会費用	950,982	
懇親会費用	955,913	
通信費	13,025	
雑費	940	
次年度への繰越金	811,990	銀行761,990円、現金50,000円
総計	3,025,824	

以上ご報告申し上げます。

2015年7月5日

会 計 東 林 華



会計監査報告

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査 李 麗 俞



ロータリー米山学友会(関西)2014-2015年度会計報告

ロータリー米山奨学生学友会(関西)
2015年度会計予算

自2015年7月1日
至2016年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	811,990	
特別補助金	248,943	国際ロータリー第2660地区
総会補助金	120,000	米山記念奨学会 @3,000×40
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
懇親会補助金	60,000	米山記念奨学会 @3,000×20
総会収入	800,000	
懇親会収入	800,000	
利息収入	100	
総計	2,941,033	

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	200,000	
会報作成費	130,000	
総会費用	1,000,000	
懇親会費用	1,000,000	
通信費	20,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	581,033	
総計	2,941,033	

以上ご報告申し上げます。

2015年7月5日

会 計 東 林 華

ロータリー米山学友会(関西)2015年度の活動報告

2015 年度 (2015-2016) 米山奨学生学友会の年間スケジュールです。

日付	行事内容	場所
2015/4/8	2015 年度米山新奨学生オリエンテーション	ヴィアール大阪
2015/5/5	2015 年度ロータリーフェスティバル ネパール震災復興募金	大阪市中央公会堂
2015/7/5	2015 年度米山総会及新規奨学生歓迎会 ネパール震災復興支援音楽祭	KKR ホテル大阪
2015/10/03	2015 年度 秋懇親会 初秋を満喫	淡路島・鳴門大橋
2015/10/18	地区奨学金委員会主催 米山奨学生レクリエーション大会	宝塚劇場 - 観劇
2015/10/25	2015 年度米山学友会第二回委員会	地区ガバナー事務所
2015/11/14	国際ロータリ 2660 地区 第六回 米山奨学生ふれあいスピーチコンテスト応援参加	サニーストンホテル
2015/12/4 ~ 5	際ロータリ 2660 地区 2015 ~ 2016 年度地区大会 国際ロータリ 2660 地区 2015 ~ 2016 年度地区大会 会議	リーガロイヤルホテル 大阪国際会議場
2015/12/5	2015 年年末忘年会 クリスマスパーティ&仮装大会	大阪 B&V ビル
2015/12/12	(第 11 回ロータリー X'mas in USJ) 大阪エバ -サルティロ-グループ 主催。 施設の児童を招待し、学友会は一日親として：応援参加	ユニバーサルスタジオ
2016/1/16	米山奨学会選考試験の応援参加	サニーストンホテル
2016/1/23	企業見学：山本能楽堂	山本能楽堂
2016/1/30	2015 年度米山学友会第二回委員会	地区ガバナー事務所
2016/2/27	地区奨学金委員会主催の米山記念奨学生終了式、歓送会	千里阪急ホテル「樹林」
2016/3/12	2015 ~ 2016 年度 米山感謝祭	KKR ホテル大阪
2014/5/28	2016 年度米山学友合同懇親会 in Seoul	ノボテル アンバサダー江南 ソウル
2016/5/28 ~ 31	第 107 回ロータリー国際大会 (韓国)	韓国ソウル国際展示場
2016/5 ~ 6	関西学友会会報 (32 号)	編集・校正・印刷

2015-16 海外学友会に参加

2015-2016 海外学友会に参加



韓国学友会総会

今年のソウルも寒いと思って、全員重ね着して出発～、2回目の韓国総会参加の学友もいる中、再会の楽しみと関西から帰国した学友ともお会いできる喜びで・・・

2015 年度韓国米山学友総会が大勢韓国米山学友・家族の参加により、盛大に開催されました。今年関西米山学友会チームも10数名の参加で、いつもの関西パーフで応援をさせて頂きました。韓国学友会役員たちとの親善交流ではなく、旧友と出会えたように来年度の事を一緒に真剣に打ち合わせをさせて頂きました。双方役員会の皆さまがいい交流できたと思います。

2015-16 海外学友会に参加

台湾扶輪米山会

1987-1989 奈良 RC 何玉翠



総会重大ニュース

- ¥ 新規理事長の選任
- ¥ 新規理事会の選任
- ¥ 台湾米山奨学金月支給

総会に

中華民國扶輪米山会 2015 年次大会は 12 月 19 日（土）に台北市内の台北市立建成中学に開催されました。

毎年関西から地区米山委員会委員長を始め、委員、学友が参加して、最初に設立した海外学友会だけあって、日本からも大勢なロータリー米山関係者、ロータリアン学友たちが出席されました。

台湾学友会では、独自の米山奨学金制度があり、日本からの留学生 4 名に奨学金を支給し、演壇に 2 名の台湾米山奨学生たちは、流暢な中国語で自己紹介し、台湾での生活、交流などを語り、台湾米山学友の皆さまに感謝の気持ちを述べました。私たち日本で受けた奨学金と同じ日本人「若手研究者対象奨学金」が台湾米山学友の恩返しと受け止めました。

「台湾米山学友」の年次大会、時間の関係年一度にしか会わない方々と家族の皆さまが大勢の参加で、盛大に開催されました。

中国学友会総会

2012 年-2013 年世話クラブ大東 RC 付 翠紅



2015 年帰国して、初中国学友会総会に関西学友代表として参加、緊張しながら出席、初対面でもない学友が大勢いるじゃない～先の緊張感がなんなの・・・どこへ行っても米山がいると実感している総会でした。



台湾米山奨学金

この奨学金は、かつて日本に留学し、日本のロータリークラブから奨学金を受けた学友たちが、台湾の大学・大学院で学ぶ日本の若者に奨学金を支給し、日台の絆を深める人材を育てようとするものです



2015-16 関西米山学友会行事写真



2015.05.05 2015年度ロータリフェスティバル ネパール震災復興支援



2015.07.05 2015年度米山総会及び新規奨学生歓迎会 ネパール震災復興支援音楽祭

2015.04.08 2015年度米山新規奨学生オリエンテーション



2015.10.18
2015年度米山奨学生
レクリエーション大会



2015.11.14
RI2660 米山奨学生ふれあい
スピーチコンテスト

2015-16 関西米山学友会行事写真



2015.10.03 2015年度秋懇親会 in 淡路島

2016.01.16 2015年度
米山奨学会選考試験



2016.01.23
企業見学
山本能楽堂

2016.02.27
RI2660 地区奨学金
委員会主催
奨学生終了式、歓送会



世界の学友、ロータリーの世界へ
国際大会文化交流の一環

U&Me

ボディビル台湾代表1

陳イチューカメラマン
郭副会長の努力結果へ

米山姉妹



2016.03.12
2015~2016年度 米山感謝祭

福田委員長&田中副委員長
米山のパワーで若返りになって
いい笑顔!いつもの応援
ありがとうございます

米山と書いた服を着ているだけで、
優しい声かけてもらいました
米山学友、
頑張らしましょう〜

5万分の1の奇跡をもたらす米山のパワ
「平和の鐘を鳴らすのは、私たち」
みんなの繋がりにこころ (YONEYAMA) から

韓国といえば?

タイx関西!!!!

米山は世界をひとつに

2016.05.28~31
ロータリー国際大会 in ソウル



2016 年米山合同懇親会 in Seoul

2016.05.28 米山学友合同懇親会 in Seoul



実行委員会
韓国米山学友会。
台湾米山学友会
モンゴル米山学友会
タイ米山学友会
関西米山学友会



胸が熱くなる～～

2016.05.28 第107回ロータリー国際大会(韓国)期間中に「米山学友合同懇親会 in Seoul」を盛大に開催されたことに感謝。

韓国を含む15の国・地域より333人以上の学友と米山との関わりの深いロータリアンが一堂に会しました、ロータリー米山記念奨学会史上初の米山学友合同懇親会です。それだけ私たち学友にとっては本当に心に残る一日になりました。

米山学友と言っても年齢、世代関係なし、20代から～70代でもあり、大家族です。

韓国学友たちの民族衣装の出迎えから、関西学友たちの熱気あふれる熊本支援募金活動で世界各地の学友とロータリアンの先生方が次々と会場に入り、熱い思いで会場が盛り上がり延々と～～



国境のない米山学友はいつまでも大家族です！



2016 年度会報募集要項

募集要項

2660 地区米山学友会関西地区奨学生の皆様、

本学友会の活動をまとめる会報第33号の入稿についてお願いいたします。

入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、「来日して自分の国(ふるさと)と違うなと思ったこと」 どちらかを選んでください。
字数と枚数	約1000字
内容	基本的には自由(エッセー・感想文なども可)です。 ※研究レポートを提出することは、お控えください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2016年2月28日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿はPCメールでの入稿をお願いします。 ※メールアドレス:yoneyama2660@gmail.com
注意事項	1. テーマを必ず冒頭にご記入をお願いします。 2. テーマの下に、所属大学および専攻・名前・国籍、 と現・元世話クラブの順番でお願いします。 (例:〇〇〇〇大学〇〇専攻 大阪花子(日本)、世話クラブ:〇〇RC) 3. 文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。 4. 提出期限を厳守してください。 5. 作文を提出する際、顔写真(JPEG)も一緒に送ってください。 できない場合、上記のメールアドレスまでご連絡ください。

編集後記

久々会報の編集をやらせていただきました。時代が変わり、会報の内容もどんどん進化し、内容は以前とだいぶ変わってきました。先輩の指摘を受けながら、急いで編集し、作製しました

以前会報編集するのは会長という役職ではありませんでしたが、今年は会長を就任し、いろんな行事に参加しました。そして、活動の写真を整理し、この一年を振り返ると、楽しい思い出がたくさんありました。新規奨学生オリエンテーション、総会、懇親会、企業見学、終了式、感謝祭、そして、世界米山学友会懇親会などなど、たくさんのロータリアン、奨学生、学友との出会いがありました。

この会報に通じて、他地区のロータリアン、奨学生、学友と交流できたら、幸いですと思っています。

最後に、カバーを製作してくれました黄さん、校正してくださる前会長何さん、ありがとうございます。そして、米山奨学生学友会(関西)会報32号を最後まで読んで頂き、誠にありがとうございます。これからも米山奨学生学友会(関西)を宜しく、お願いいたします

編集チーム

編集: 潘 振興(学友・1996～1998年度米山奨学金受給者・世話クラブ; 奈良大宮RC)

校正: 何 玉翠(学友・1987～1989年度米山奨学金受給者・世話クラブ; 奈良RC)

総括: 何 玉翠(学友・1987～1989年度米山奨学金受給者・世話クラブ; 奈良RC)

表紙: 黄 詠翔(学友・2012年度米山奨学金受給者・世話クラブ; 大阪鶴見RC)

YONEYAMA KANSAI 32

ROTARY 2660 YONEYAMA ALUMNIKANSAI 2015-2016